

東京朝刊 2019/09/22(日)

世界の 見方



国連総会が17日始まり、「持続可能な開発目標」(SDGs)の実現のために、世界各国が知恵を出し合っている。台湾はSDGsの目標実現に向けて支援を必要とする国々と協力を進めている。だが台湾は国連総会やSDGs関連会議、メカニズム、活動から排除されている。世界が協力を話し合う場であるのに台湾が「空白」になっていることは非常に残念なことだ。

台湾は2009〜16年の8年連続でオプザバー参加していた世界保健機関(WHO)の年次総会(WHA)も17年から参加できなくなった。各国との情報共有や国際協力が制限されることは、台湾が国際防疫の「空白」となるリスクがあり、速やかに解決されるべきである。

24日にはカナダで国際民間航空機関(ICAO)の第40回総会が始まるが、台湾は参加がかなわなかった。

国際民間航空機関(ICAO)



民間の国際航空の安全運航と秩序ある発展を目的に

1947年に発足した国連の専門機関。カナダ・モントリオールに本部を置く。テロ対策などの条約策

謝長廷

台北駐日経済文化代表処代表

台湾を空白にしない

台湾が管轄する台北飛行情報区には毎日膨大な旅客機や貨物機が飛行している。台湾には17カ所の空港があり、313路線の定期旅客・貨物路線が運航され、世界の149都市を結んでいる。

台湾はICAOの飛行安全水準を満たすよう努力を続けている。台湾が排除されることは世界各国が共有すべき飛行安全に関する最新情報を台湾だけ同時取得できないことを意味するのであり、安全の「空白」となりかねない。そうならないために技術的、実務的、専門的にICAOに参加する必要がある。

グローバル化は進み、経済面でも台湾と日本の貿易量は増えている。台湾は日本が主導する包括的かつ先進的な環太平洋パートナーシップ協定(CPTPP)への参加も望んでおり、日本のメリットにもなると確信している。

台湾を「空白」にしないことが持続可能なアジア、世界をつくる。今後も日本および各界の支持を得ながら国際機関参加について理解が広がるよう努めたい。(寄稿)

定や、国際航空のガイドラインを作成する。日本は53年10月に加盟。総会が最高意思決定機関で、3年に1度開かれ、理事会メンバー国の選挙、予算採択、航空に関する政策方針について審議・承認する。

(c)毎日新聞社 無断転載、複製を禁止します。